令和７年度関東甲信造園建設業協会協議会

関東甲信造園建設業協会協議会は、造園業界の課題や造園建設業協会のあり方などを協議するため、毎年関東甲信地域９都県の協会の持ち回りにより開催されています。

令和７年度は10月３日（金）、（一社）埼玉県造園業協会主催により開催され１都８県52名が出席しました。当協会からは、伊藤高広会長、浮ケ谷容徳副会長、榊原正和副会長、森田春雄専務理事の４人が出席しました。

第１部の協議会は、さいたま市「パレスホテル大宮」で開催され、「造園業界における職域活動（政党との連携体制、要望活動や選挙時の協力体制、関係性）について」をテーマに各県から意見発表と意見交換がなされました。

第２部の現地視察は、さいたま市にある「大宮鉄道博物館」と「大宮盆栽美術館」を晴れて夏日で暑いなか見学しました。

「大宮鉄道博物館」は2007年に開館、「車両」「歴史」「仕事」「科学」「未来」の５つのステーションに分かれ、鉄道の歴史、技術、文化を体験できる博物館で、今回は実物車両の展示（42両）を見学しました。

館内には明治時代の蒸気機関車から最新の新幹線まで、時代ごとの実物車両がずらりと並び、その広さと展示の多さに驚かされ、鉄道の歴史を肌で感じることができました。

参加者からは、若いころに利用した車両を目の前にして、昭和31年に製造された電気機関車を見たことがあるとか、昭和32年製造された電車に乗ったことがあるとか懐かしんでいました。また、解説パネルや映像も分かりやすく、技術の進歩や鉄道が日本の発展に果たした役割を改めて感じることができました。

鉄道博物館は、世代を超えて楽しめる素晴らしい施設です。皆さんも機会があれば、ぜひ訪れてみてはいかがでしょうか。

「大宮盆栽美術館」は、2010年に開館した世界で初めての公立の盆栽美術館です。入口のコレクションギャラリーは、プロローグ、ギャラリー、座敷飾りという、３つの空間から構成されています。プロローグでは、盆栽文化への導入部として、当館コレクション（盆栽、盆器、水石、絵画資料、歴史、民俗）と盆栽の鑑賞方法とをパネルで紹介しています。続くギャラリーと座敷飾りが盆栽の展示空間となり、ギャラリーで５席、座敷飾りでは３席の盆栽を季節に合わせ、週替わりで紹介しています。盆栽が単なる園芸ではなく、日本文化の奥深い「美の縮図」であることを学びました。

中庭に出ると、松や楓、五葉松など、それぞれ個性の異なる約60点の盆栽が並び、四季折々の風情を感じました。特に樹齢百年を超える黒松の盆栽には圧倒され、長い年月を経て育まれた生命力と職人の手仕事に感動しました。小さな鉢の中に自然の大きな世界が凝縮されているようで、眺めているだけで心が落ち着く時間でした。

その中の盆栽庭園池は、今年大宮盆栽村が開村100周年を迎える記念すべき年に、より盆栽に優しく、人にも優しい環境で盆栽を鑑賞いただくため、さいたま市のプロポーザルにより市内の造園業者が受注し、令和７年３月にリニューアルオープンしました。

庭園の池の改修において一番の課題となったのが、年々過酷さを増す夏場の猛暑における育成管理と鑑賞環境の向上です。これらの対策と改善のため、池の周囲にミスト装置（２ｍ範囲内でー４℃低減、2.4ℓ～4.0ℓ/日）を設置されていました。

また、池の中央に島を設置するに当たり、展示する盆栽の運搬や水遣りなどの保守管理の動線を確保するため、島までの通路を設置されていました。景観の美しさを損なうことなく、盆栽管理などの機能性を確保するなど工夫されています。ぜひ、新しくなった盆栽庭園に足をお運びください。

第３部の懇親会では埼玉県知事から挨拶があり、乾杯の音頭は、来年度千葉県が開催予定のため伊藤会長が行いました。

協議会全体会議

大宮鉄道博物館

大宮盆栽美術館盆栽庭園